

宇宙線の発生初観測

連星から飛散 宇宙飛行士の被曝原因?

広島大とNASA 共同研究

連星と呼ばれるペアの恒星が、地球にも降り注ぐ高エネルギーの粒子「宇宙線」

を発生する様子を世界で初めて観測したと、広島大(東広島市)と米航空宇宙局(NASA)の研究チームが2日、明らかにした。これまで詳しい発生源は明らかになっておらず、地球への影響を含めた研究の進展が期待できるという。

太陽の90倍と30倍の重さの恒星が連なる銀河系最大



級の連星「りゅうこつ座エータ星」で、互いの星が噴き出すガスが激しくぶつかり合い、宇宙線を発している。発生源の研究を続けていた広島大がNASAと協力。宇宙線が放射する電磁波の「硬エックス線」を分析できる望遠鏡を初搭載したNASAの衛星を

使い、観測に成功したという。

宇宙線は地球の周りを飛び回り、宇宙飛行士の被曝の原因にもなると考えられ、一部は地球上にも届いている。

他の連星が同様に宇宙線の発生源になっている可能

性が高く、広島大学院理学研究科の高橋弘充助教(40)「宇宙物理学」は「発生源メカニズムや地球への影響などの解明につなげた」と話す。研究成果は英科学誌「ネイチャーアストロノミー」に掲載された。
(長久豪佑)